川越市立博物館

博物館だより

第27号

鷹絵額（東照宮蔵）

埼玉県指定文化財の絵画で、山形長縦64cm、幅52cm、厚さが4.4cmある。12面あり、それぞれに異なった様子の鷹が一羽ずつ描かれている。作者は明らかでない。

各面に「寛永十四丁丑暦（1637）九月十七日阿部対馬守藤原朝臣重次」と記されている。この日付は江戸城内二の丸東照宮の創建日にあたることから、この鷹絵額は、初めは江戸城内の東照宮に奉献され、その後仙波東照宮に移ったと推測される。

砂子地金箔塗の上にどれも生き生きと描かれた鷹は、とまり木に乗り、紐で繋がれている。いうまでもなく、鷹狩りに使われた鷹であろう。鷹狩りは、鷹野・放鷹ともいわれ、日本には朝鮮半島を経由してもたらされた。鷹などを山野に放って野鳥を捕らえさせたこの狩猟は、戦国時代以降には一つのイベントとして武家に愛好された。綱吉を除く歴代徳川の将軍にも好まれ、江戸時代、江戸周辺には将軍家や紀伊家などの鷹場が置かれていた。

そうしたことで馴染みのあった鷹図は各地に残されているが、本額はその代表的作品ともいえる。

奉納者の阿部重次は、江戸時代前期の譜代大名である。寛永10年（1633）松平信綱・阿部忠秋らとともに六人衆の一員として幕政に参与し、寛永15年（1638）には武蔵岩槻5万9千石を領し老中となった。その後加増され9万9千石となったが、慶安4年（1651）、将軍家光の死に殉じた。

下小坂の獅子舞

埼玉県を代表する芸能として、よく万作と獅子舞があげられます。川越でも、村に一つは獅子舞があったと思えるほど、なじみ深い芸能でした。

しかし、時が移りゆくのに従い、一つ消え、また一つ消えし、昭和43年発行の「川越市史民俗編」には、16カ所の獅子舞が記録されていますが、現在行われているのはわずか6カ所となってしまいました。

今回は、残された数少ない獅子舞のなかで、下小坂（しもおさか）の獅子舞を御紹介したいと思います。

下小坂の獅子頭

下小坂地区は川越市の西北部に位置し、入間川の支流小畔川に面しています。畑作地帯ですが、川筋には広々とした田が広がり、今の時期には青々とした稲の海が眺められる涼しげな風景の場所です。

鎮守白鬚神社は地区の東部にあり、市の天然記念物に指定されている大けやき2本が、境内にいたる参道を守っています。白鬚神社の境内には、八坂神社（天王さま）が合祀されており、毎年7月の中頃、天王さまの夏祭りには、五穀豊穣と悪疫退散の願いを込めて、獅子舞が奉納されます。

下小坂の獅子舞の起源については、二つの説が伝承されています。一つは、寛政年間（1789～1800）に、当時の永命寺住職の真海という和尚さまの夢枕に「武州入間川宿（現狭山市入間川）の獅子頭を招いて祈禱すれば、夏毎に流行する悪疫を退散することができる」というお告げがあったというものです。そこで、当時の寺の世話役達が中心になって獅子頭を新調し、入間川の獅子にならって始めたということです。もう一つの伝承は、永命寺に薬師堂を建立したのをきっかけに始まったというものです。薬師堂は元禄3年（1690）に現在の鶴ヶ島市太田ヶ谷の大工棟梁柳沢定重、柳沢吉右衛門の手で建てられたといわれています。天王さまの行事の前に薬師堂で獅子舞を行うのはそのためなのだ、と伝えられています。

さて、下小坂の獅子舞は現在は1日で終わりますが、以前は数日間に及ぶ行事でした。昔の天王さまの行事を伺ってきましたので、簡単にまとめてみましょう。

まず、天王さまの行事は7月1日の年行事の交替から始まりました。次に7月7日の朝早く、子供たちが白鬚神社境内にある天王さまを「わっしょ、わっしょ」と担ぎだして小畔川に運びこみ、清めた後、永命寺境内にある仮宮に移しました。そして仮宮の前で獅子舞が舞われました。練習の意味があったと伝えられます。

次に、7月12日に永命寺の薬師堂で「観音経」があったので、そこでも一庭舞ったそうです。

7月14日は、「ソロイ」といって獅子たちはすっかり支度をし本番さながらのリハーサルをしました。いよいよ7月15日が天王さまの当日です。

この日は、よその土地にお嫁にいった人なども帰ってきますし、お餅をついてお祝いをする家もあり、にぎやかだったといいます。地区の人たちは、ゆかたを新調し、初物のきゅうりやお餅をたずさえて、天王さまに詣でました。午前中は、祭典が行われ、午後は天王さまの仮宮や白鬚神社などで獅子舞が舞われ、笛の音にあわせて、村回りをしました。獅子は、家を順々に訪れると、草鞋ばきのまま縁側から座敷にあがり、家を清めました。全部の家を回るため、最後の目的地永命寺に到着するのは、もう夜おそくになっていたそうです。仮宮の前には、五つの絵入りの大きな提灯が飾られ、また、地区の人達も、「しし」の文字が入った提灯をさげていました。蠟燭の光をうけた獅子舞は、たいそう美しかったことでしょう。

村回り

平成2年頃までは、上記の様な行事が残されていましたが、世の中の変化に伴って行事が省略され、現在では7月の15日前後の日曜日に獅子舞が一庭舞われるだけです。昨年（平成10年）は、7月19日に行事が行われました。

行事の準備は年行事が中心となり、獅子頭や花笠を事前に組み立て、当日に備えます。

ところで、下小坂の獅子舞は、仲立ち1人、シシクルイッコとよばれる獅子の舞い手3人、ササラという楽器を摺るササラッコが4人、棒術を披露する2人が中心で舞われます。下小坂の獅子の頭は獅子というより、どことなく龍を思わせる容貌で、男獅子（オージシ）、中獅子（チュージシ）、女獅子（メジシ）の三頭

からなっています。女獅子は角が１本で赤く塗られていますのですぐ分かりますが、男獅子と中獅子の区別はねじれた巻き角が男獅子、八角形の角が中獅子となっています。花笠は、ササラッコがかぶる物で、篩の枠のような笠にピンクの紙で作った花を10本ほど飾ったものです。

当日午前８時頃、白鬚神社の天王さまに、獅子頭や花笠をもってゆき、神主にお祓いをしてもらいます。

獅子の行列の出発は午後１時、法螺貝の音を合図に、下小坂の自治会館を出ます。行列の構成は、万灯持ち（「天下泰平」「五穀豊穣」と書かれています）―幣束持ち―棒使い２人（六尺棒を持っています）―ササラッコ４人―仲立ち１人―シシクルイッコ３人―団扇もち―笛吹き―歌唄い―年行事の順番です。

昔は、小学２～６年生くらいの男の子が、仲立ち、ササラッコ、シシクルイッコをつとめましたが、現在は、全員大人の男子が演じています。大人の演じる仲立ちや獅子は動きが大きく、迫力があります。一方、花笠をかぶったササラッコですが、川越に残されている獅子舞のササラッコの多くは、可憐な女の子が演じますので、それを見慣れた目には、筋骨隆々のササラッコにはちょっとびっくりします。

さて、行列は、「道下り」の笛に合わせて進みます。行列の後には、小さな子供とお母さんたち、また、うちわをもったお年寄りなど地区の人たちが、時おり「よいとこまあだい」のかけ声を入れながら続きます。

途中、休憩もかねて、２カ所の家によります。笛は「唐人下り」の音に変わり、かけ声も「やれそれ」となります。家人は、お祓いを受け御札を受けとり、悪疫退散・家内安全を祈念します。家では飲み物やお菓子などを用意して待ち受け、行列に付いてきた人たちにも振るまいます。白鬚神社に近づき、皆行列を整えます。いよいよ獅子舞の本番です。

境内に入ると、まず、六尺棒で「庭」（獅子舞を舞う場所）を定め、その後棒術が披露されます。

棒　術

ササラッコが四隅につくと、仲立ちが「庭」を清める踊りをし、その後、獅子がクルイ始めます。だいたい、30分くらいの上演でしょうか。１頭ずつ踊ったり、仲立ちに導かれて、輪になり３頭で踊ったりします。なかでも、「女獅子の奪い合い」が大きな見せ場となっています。ササラッコの間に女獅子が隠れ、女獅子をめぐって男獅子と中獅子が争います。また、途中小唄が入ることもあります。昨年は「仲立ちは京に生まれて伊勢育ち　腰に差したる伊勢のお祓い」と唄われました。

下小坂の獅子舞は、笛を吹く人が多く、笛の音は刻々と変化してゆきます。その笛の音にあわせて、仲立ちとシシクルイッコたちが激しく舞います。曲の終盤にかかる頃には、見ている人にも仲立ちやシシクルイッコの心臓の速い鼓動が聞こえてくるようです。

獅子舞（白鬚神社）

最後は、仲立ちとシシクルイッコが社殿に向かって一礼し、走り去ります。時を移さず、周囲の人々が口々に千秋楽の言葉を唱えながら庭を一周します。「千秋楽には悪魔を祓い　万歳楽には命を誓う　相生の松風さつさつの声ぞ楽しき」と唱えた後、手打ちを行って獅子舞は終了します。

獅子舞が終わったその日の夕方、地区の人たちはまた、自治会館に集まります。「かんじょう」といって、行事にかかった費用をその場で清算するのです。この後、年行事が用意した塩もみきゅうりを肴に直会（なおらい）があります。地区の人達は、万灯や花笠に飾った花と、ふせぎの御札、お捻りのお供物の餅をもらって、家路につきます。ふせぎの御札と花は、来年まで家の神棚などに供え、一年の息災を祈るのです。

かんじょう

暑い一日でしたが、すばらしい獅子舞を見ることができました。今年の下小坂の獅子舞は７月18日（日）の予定だそうです。

川越に残された獅子舞の、今年の予定を御紹介します。「石原のささら獅子舞」は４月18日に行事が終わっていますが、「福田の獅子舞」（７月31日・８月１日〈予定〉）・「古谷本郷の獅子舞」（９月15日〈ほろ祭の後にあります〉）・「上寺山の獅子舞」（10月16日）・「石田の獅子舞」（７月14日もしくは10月14日〈未定〉）があります。お近くにお住まいの方は、お出かけになってはいかがでしょうか。

（文化財保護課　田中　敦子）

関　松窓のこと

上に掲げた写真は、当館が所蔵する関　松窓の随筆「松窓漫録」の写本である。当館本は全6冊からなり、各冊の表紙に書名のほかに「一名刪定関東古戦録」と記されている。このことからも知られるように、本書は関東戦国時代の戦乱の記録であるが、前島康彦博士は、関　松窓が槇島昭武の「関八州古戦録」（享保11年・1726成立）を再編成しようとしたものであろう、と指摘されている（注1）。

著者の関　松窓は、通称を永一郎、名を修齢、字を君長といい、松窓のほかに棲雲楼などの号がある。享保11年の頃に生まれ、享和元年（1801）4月に75歳を以て没した。しばしば「河越　関　修齢」と署名しているところから、生地は川越とみられるが、その出自などは明らかでない。たまたま内閣文庫架蔵の写本「松窓文稿」に「先妣河越市野川氏墓碣」なる一文があり、亡母の姓が市野川氏で、先祖は小田原北条氏時代は武士であったなどと記されている。

初め井上蘭台に学び、ついで寛延3年（1750）林大学頭に入門し、明和7年（1770）に林家の八代洲河岸塾の塾頭に進んだ。その間多くの後進を育てた中に、川越藩主秋元家の家臣から出て、後に江戸漢詩壇の耆宿と仰がれた市河寛斎がいる。また、宝暦7年（1757）から明和6年までの間、儒者として松平大和守家（前橋・川越藩主）に仕えたことがあった。

松窓の著述は、「戦国策高註補正」など漢学関係のものに加えて、清の漂流民護送時の記録「巡海録」、川越の地誌「川越地理略」などが写本として伝わる。なかでも「川越地理略」は、松平大和守家が前橋から川越に国替えになった明和4年の成立で、あるいは新領地の事情案内として、川越出身の藩儒である松窓が筆を執ったものかとも思われる。「武蔵三芳野名勝図会」など近世川越の地誌類が憚り記さない川越城内の様子や、かつて仙波組と川越組との間で端午の節句の印地打ち（石合戦）が行われていたことなど、興味深い記事がある（注2）。

（注1）「関東古戦録と松窗漫録」　『埼玉史談』第26巻第3・4号

（注2）岡村一郎『川越歴史随筆』に、「川越地理略」の考証と本文の一部翻刻が収められている。

（T．T生）

平成10年度　利用状況　博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館

平成10年4月1日から平成11年3月31日までの、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館の入館者数の合計です。

各館とも、12万人以上のお客様に御来館いただきました。

今後もより多くの方に御満足いただけるよう、常設展示・企画展示の充実を図っていきたいと考えています。どうぞ皆様で足をお運びください。

施設区分	年間入館者数	1日平均入館者数	開館日数
博物館	139,785（人）	505（人）	277（日）
川越城本丸御殿	120,932	418	289
川越市蔵造り資料館	127,369	441	289

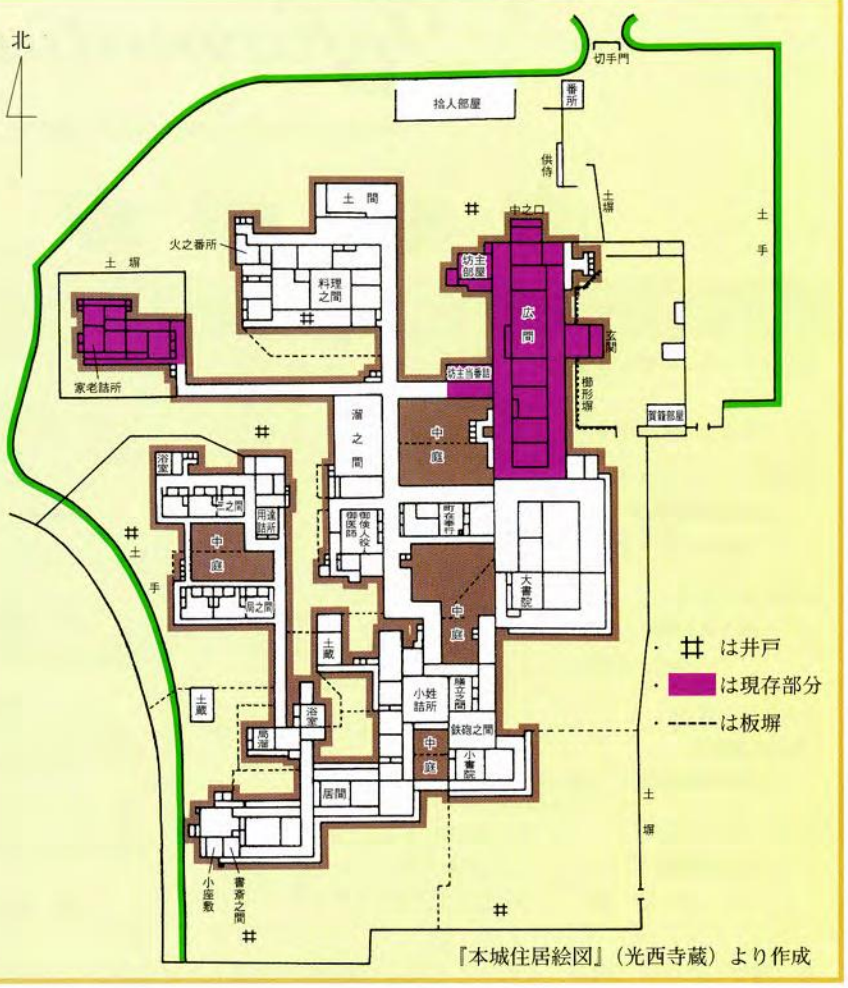
分館だより
―本丸御殿―

幕末期の本丸御殿

川越城唯一の遺構として現存する建物は、嘉永元年（1848）藩主松平斉典により造営された本丸御殿の玄関部分と家老詰所のみですが、当時の規模はどの位だったのでしょうか。

知る手がかりとなる貴重な史料に『本城住居絵図』（光西寺蔵）があります。川越藩最後の藩主松平周防守家に伝わった100分の１の実測図です。松平大和守から松平周防守に引き継ぎが行われた慶応３年（1867）頃作成されたと考えられています。

絵図によると、建物の数約16棟、1025坪もの規模があったことがわかります。部屋の配置や名称、畳数のほか、井戸や塀などが詳細に描かれています。右の図で主な部屋を示しましたので御参照下さい。



『本城住居絵図』（光西寺蔵）より作成

常設展示室のコーナーから

「川越の職人」コーナー

鋸鍛冶

平成11年10月24日（日）まで展示

山から原木を伐り出す。伐り出した原木を製材する。製材した角材に仕口（しぐち）を作り、組み上げる。私たちは、鋸を挽くことで木材を加工し、建物や調度などくらしに必要な品々を作ってきました。

鋸の出現は古く、岡山県倉敷市の金蔵山（きんぞうざん）古墳からは小型の両刃鋸が発見されています。製材用の大鋸（おが）が登場したのは、室町時代のことです。江戸時代以降、両刃鋸・胴付鋸・畦挽鋸（あぜびき）など用途に応じた様々な鋸が作られるようになりました。

これらの鋸を作るのが鋸鍛冶です。

現在、展示室に再現されている鋸鍛冶の仕事場は、市内中原町にあった中屋辺作（なべさく）（本名：高橋伊勢太郎・明治26年～昭和57年）の仕事場をモデルにしています。

辺作の仕事場は、間口２間、奥行２間ほどの広さでした。向かって左手は、フイゴを据え、ホドを設けた火造りの場所です。ここでは、鋼を鍛え延ばして鋸の原型を作ります。また、奥には、センドコやオカドコが並ぶ、歪み直し・目立の場所があります。ここでは、焼き入れを終えた鋸をセンで削り、ツチで叩いて狂いを正し、アセリを出して鋸の刃を作ります。こうして仕上がった鋸には、誇らかに作者の銘が切られました。

Information

平成11年度の行事予定の一部です。

講座・教室 etc.

行事	日程	申し込み
小学校中学年から中学生まで **子ども博物館教室**	㊊8/4～25 ㊥9/25～11/7 ㊧12/19～2/26	㊊7/15～ ㊥9/2～ ㊧12/1～
四門前を中心に訪ねます **野外博物館教室** **「川越の門前を訪ねて」**	10/31（日）	10/1（金） 9：00～
博物館歴史講座 **「城下町探訪 ～川越と岩槻～」**	9/29、 10/6、13（水）	9/3（金） 9：00～
博物館歴史講座 **「歴史の道探訪 ～川越の鎌倉道と上道～」**	11/5、12、19 （金）	10/4（月） 9：00～
古文書の解読を中心に **古文書講座 中級編**	11/20、27、 12/4（土）、 12/12（日）	11/5（金） 9：00～
夏休みの宿題に困ったら ☆ **夏休み子ども自由研究相談教室**	7/31、 8/1、7、8 （土、日）	事前の申し込みは不要です。 当日、直接会場へお越し下さい。 （時間については、事前に御確認下さい）
夏休みにおくる映画会 ☆ **ミュージアムシアター**	7/24、25、 8/14、15 （土、日）	
民俗芸能実演 ☆ **"中福の神楽"**	11/3（水）	
川越の伝説、他 ☆ **影絵劇**	11/28（日）	11/1（月） 9：00～
音楽とのふれあい ☆ **ミュージアムコンサート**	12/5（日）	11/10（水） 9：00～
絵図の解読と現地見学 **絵・地図をよむ**	9/12（日） 18（土） 19（日）	9/1（水） 9：00～

＊ お申し込みは、電話・ファックスで。 変更の可能性もありますので、詳細については、「広報 川越」を御覧下さい。
お問い合わせは、博物館まで。 ☆印の催しは、参加無料です。

講座・教室 pick up

昔の遊び

夏休みに、昔の遊びを体験してみませんか。
駄菓子屋さんでおもちゃを買って路地裏で遊んだ頃……
一昔前の雰囲気をあじわってみてください。
べーごま・こま回し・パチンコ・輪投げなど……
今回は、竹を使ったおもちゃ作りも行います。

日時 平成11年7月31日（土）
8月1日（日）
午前10時～11時30分
午後1時30分～4時

会場 川越市立博物館
体験学習室

申し込みは不要です。
児童・生徒は、参加のための入館は無料です。

土曜体験教室

毎月第2土曜日、博物館で遊んでみませんか？

平成11年

7／10 七夕飾りを作ろう

8／14 博物館フォトラリー

9／11 折り紙を楽しもう

10／9 わらなわ作りをしよう

11／13 火おこしに挑戦しよう

●時間 午前10時～11時30分
午後1時30分～3時30分
申し込みは不要です。当日、直接博物館へお越しください。
児童・生徒は、参加のための入館は無料です。

年内・特別展示室の催し

○第９回収蔵品展

「暮らしの器」

平成11年７月24日（土）～９月12日（日）

※８ページも御覧下さい。

○第15回企画展

「悪疫退散・五穀豊穣

川越の獅子舞」（仮題）

平成11年10月２日（土）～11月14日（日）

古谷本郷上組の獅子舞

かつて川越地方では悪疫退散・五穀豊穣のために獅子舞が各地で行われていました。しかし、その獅子舞も時代の推移とともに次第に中止となり、現在では数カ所を残すのみとなってしまいました。ところが最近になって、中断していた獅子舞を復活しようという地区も生まれてきています。この企画展では川越地方で広く行われていた獅子舞を紹介し、芸能と地域との関係を考えてみます。

民俗展示室の展示替え（年内）

◆ふるさとのまつりコーナー

○ほろ祭　7／8～10／17

○南大塚の餅つき踊り　10／19～（1／30）

◆職人の仕事場コーナー

○のこぎり鍛冶　～10／24

○菓子職人　10／26～

図録紹介

《博物館受付でお求めいただけます。》

第３回企画展
松平周防守と川越藩
一、〇〇〇円

第４回企画展
美の先達者たち
鏡にみる日本の美と心
一、三〇〇円

第14回企画展
中世びとの祈り
―仏像・金工品に見る祈りのかたち―
一、〇〇〇円

第９回収蔵品展
暮らしの器

平成11年７月24日(土)～９月12日(日)

特別展示室の展観

当館では、開館以来皆様の御厚意により、数多くの民具資料を収蔵してまいりました。これらの資料は、かつての川越の人々の暮らしを知るうえで貴重な資料です。このような資料を多くの方々に見ていただく機会として、毎年収蔵品展を開催しています。

今回の収蔵品展では「器（うつわ）」というテーマで、収蔵資料を紹介します。陶磁器や漆器など、暮らしにまつわる様々な器を展示する予定です。

御案内

御存知でしたか？
機織り体験

体験学習室で、機織りの体験ができます。
“裂き織り”――火・水曜日　午後１時～３時
“唐桟織り”――土・日曜日　午前10時～12時
　　午後１時～３時

ただし、全てボランティアとしての運営ですので、予定日に行われないこともあります。

また、体験学習室で博物館主催事業があると、機織り体験はお休みします。

御了承ください。

・・・・・ 利用の御案内 ・・・・・

◆開館時間　午前９時から午後５時まで（ただし入館は４時30分まで）

◆休館日　月曜日（休日は除く）、毎月第４金曜日（休日は除く）、休日の翌日（土・日曜日は除く）、年末年始（12/28～1/4）、燻蒸期間（７月上旬頃予定）、特別整理期間（12月中旬予定）

◆入館料

区分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	３館共通券〈博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館〉
大人	200円(160円)	100円(80円)	100円(80円)	300円
学生・生徒	100円(80円)	50円(40円)	50円(40円)	150円
児童	50円(40円)	30円(20円)	30円(20円)	80円

●（　）内料金は、団体〔20名以上、１名につき〕の場合。

●開館時間・休館日は、３館とも同様。（燻蒸期間・特別整理期間は博物館のみ休館）

交通案内

東武東上線・ＪＲ川越線　川越駅より
または西武新宿線　本川越駅より
東武バス　「札の辻」下車徒歩８分

発行日　平成11年７月２日　　発　行　川越市立博物館
〒350-0053　川越市郭町２丁目30番地１　☎0492-22-5399

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています